

第4回草津市まち・ひと・しごと創生推進懇話会 会議録

■日時：

令和元年9月24日（火）15時～16時15分

■場所：

草津市役所 4階 行政委員会室

■出席委員：

今達委員、片岡委員、川口委員、肥塚委員（座長）、塚口委員、中村委員（副座長）、森本委員、山下（智恵）委員、吉川委員

■欠席委員：

山下（剛）委員

■事務局：

総合政策部 岡野部長、金森副部長
企画調整課 松浦課長、村上副係長、力石主査

（説明員）

まちづくり協働課 角課長
商工観光労政課 井上課長、青木主任
健康福祉政策課 田村係長

■傍聴者：

1名

1. 開会

【岡野部長】

本日は、第4回草津市まち・ひと・しごと創生推進懇話会を開催いたしましたところ、大変お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

まち・ひと・しごと、いわゆる地方創生の取組につきましては、今後の人口減少局面を迎えるに際して様々な影響がでてまいります。これを最小限に食い止めるとともに、さらに魅力的な持続可能なまちを作っていこうとするもので、本市におきましても平成27年度に総合戦略を策定させていただき、取組を進めているところでございます。

また、現在、第6次草津市総合計画の策定に取り組んでいるところでございますが、その中で将来の人口の見通しもおおよそではございますが見えてきたところでございます。令和12年ごろに14万7千人ほどになると見込んでいるところでございます。

平成27年度に総合戦略を策定した際には、人口ビジョン（＝人口目標）を設定させていただき、ピークで14万5千人と見込んでおりましたが、若干上振れするような見込みとな

っており、地方創生の取組も一助になったのではないかと考えているところでございます。また、地方創生にかかる取組は一朝一夕では成功するものではなく、息の長い取組が必要になってまいっているところでございます。

本日につきましては、平成30年度に実施させていただきました取組について、その効果などの検証をいただきたいと思っております。

また、御意見を頂戴する中で、今後の地方創生に有効なアイデア等をいただけるとありがたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員紹介

【参考資料1に基づき紹介】

3. 議事

(1) 平成30年度 総合戦略の指標および重要業績評価指標の実績値について

●事務局

【資料1に基づき説明】

●委員

「⑤多様な交流の促進」のKPIである観光入込客数については、令和元年12月頃に実績値が確定するとのことであるが、確定値が大幅に増加する可能性はあるのか。

また、実績値（H30）が目標値（R1）を大幅に上回っている要因としては何が考えられるのか。

●事務局

観光入込客数の実績値（H30）については、既に県へ報告しているところではあるが、当該数値が公表される時期が令和元年12月頃の予定となっているため、このような注釈を入れている。公表までの間に県が微修正をされることもあるが、この場合であっても大きく数値が変わるものではないと考えている。

また、数値の大幅な増加の要因としては、草津宿場まつりが50回目の記念事業として事業を拡大して実施したことやイナズマロックフェス2018が例年の2日間の開催から3日となったこと、平成29年3月にオープンした草津川跡地公園のde愛ひろばの来園者数が平成30年度は通年（1月～12月）で計上できたことなどが考えられる。

●委員

『「授業がわかる」と感じている児童生徒の割合』など、現状値（H26）と実績値（H30）を比較すると、数値が下がっている指標があるが、今後の取組の方向性について教えてほしい。

●事務局

本日は教育委員会事務局が出席していないため、可能な範囲でお答えさせていただくことになるが、『「授業がわかる」と感じている児童生徒の割合』については、現状値から毎年 0.5 ポイントずつ上昇させるという考え方にに基づき、目標値（R 1）を設定し、教員の努力はもとより、ICT教育の推進などの各種取組を進めてきたところである。

また、実績値の算定にあたっては、市内市立の全小中学校を対象に実施する「学校評価アンケート」に基づき数値を算出している。当該アンケートについては、各学校が独自に実施する学校評価であるが、平成 28 年度までは各学校で 5 段階評価（たいへんよくわかる、よくわかる、わかる、あまりわからない、わからない）、あるいは 4 段階評価（よくわかる、わかる、あまりわからない、わからない）で実施されており、調査方法が統一されていなかったことから、平成 29 年度からこれを 4 段階での評価に統一した。このことにより、それまで 5 段階で調査を行っていた学校の数値が下がり、全体の数値も下がってしまうといった結果になった。

あわせて、現在、「先生がわかりやすく説明する授業」から「子どもたちが主体的に学ぶ授業」であるアクティブラーニングへの転換を図っている過渡期であることから、これまでの「受け身」での学習に慣れている生徒にとっては、「授業がわかりにくい」と感じている面があるのではと考えている。しかしながら、こうした取組を継続することが今後の子どもたちの学ぶ力の育成につながっていくものと考えている。

●委員

学力学習状況調査の結果では、草津市は多くの項目で全国平均を上回っている状況にあったが、学びを日常生活でどのように生かすか、といった「活用」に関する項目では若干低い傾向にあったように記憶しており、事務局の説明がその部分にも関係していることから、今後に期待がもてる内容であると考えている。

しかしながら、目標値（R 1）と現在の実績値（H30）には約 5 ポイントの差がある。今後の取組の展開について教えてほしい。

●事務局

5 ポイントの差が今年度のみ取組で急に埋まることは非常に困難であると考えているが、現在進めている応用力を身につけるといった本市の方針は間違いではなく、今後、子どもたちが社会に出ていく中で必ず役立っていく力を身に付けているものだと考えている。ICT教育といった言葉ばかりが着目されているが、これを活用する能力を鍛えているところであることから、今後も引き続き取り組んでいきたいと考えている。

●委員

日常生活の中で活用ができるようにということであれば、現在の教育方法を大きく変えていく必要がある。先進地では、単なるアクティブラーニングといった方式だけではなく、かなり新しい方法で取り組まれているように感じており、これを1年で進めていくことは難しいのではないかと考える。

また、目標値（R1）を90%と非常に高い値に設定されているが、取組には一定の達成感も必要であることから、ある程度達成可能な目標値を設定する方法もあるのではないかと考える。

●座長

次期総合戦略を策定される際には、委員の御意見も踏まえ目標値設定の検討をされたい。

●委員

「(1)年間出生数」について、様々な取組をされている中、現状値から実績値が下がっていることについて、何か分析をされているか。

●事務局

合計特殊出生率の推移は、ここ数年で大きな変化は見られないが、合計特殊出生率は一人の女性が出産可能とされる15歳から49歳までに出生する子どもの数の平均を示すものであるところ、本市においては、当該年齢にあたる女性人口が減少している傾向が見られる。この傾向については、先日、県で開催された「県・市町まち・ひと・しごと総合戦略連携推進会議」でも、県内で同様の傾向があるといった説明がされており、詳細な分析を行う必要があると認識している。

●委員

女性の人口が減少傾向にあることについては、「女性に住みやすいまち」といった観点からも分析を進めていただければと思う。

(2)平成30年度 地方創生関連交付金事業の効果検証について

●事務局

【資料2-1、2-2に基づき説明】

《「健幸都市くさつ」実現プロジェクト》

●委員

事業効果については、国の示す基準に基づき評価が行われており問題ないと思うが、指標を個別に見ていくと、『指標(1)「健幸都市くさつ」の実現をアシストする健幸づくりツアーの売上高』と「指標(3)健幸都市宣言賛同企業・団体数」は目標を達成している

ものの、『指標（２）草津市が「健幸なまち」であると思う市民の割合』の数値は減少しており、指標（１）と指標（３）の取組の成果が反映されていない結果となっている。このことを踏まえ、今後の展開をどのように考えているのか。

また、健幸づくりツアーについて、参加者のうち、市外の方はどの程度参加されているのか。

●事務局

『指標（２）草津市が「健幸なまち」であると思う市民の割合』の実績値（H30）と目標値（R1）の乖離についてであるが、市民の皆様には「健幸なまち」と実感いただくためには、中長期的な取組が必要となると考えている。今後については、引き続き健幸都市の啓発を行っていくとともに、健幸都市くさつ基本計画に位置付けている各種事業を着実に実行していくことが重要であると考えており、これら取組を継続していくことで市民の皆様には「健幸なまち」と実感いただけるものと考えている。

●事務局

「健幸づくりツアー」の参加者に占める市外の方の割合については、現在、資料を持ち合わせていないため、お答えができない。

●座長

『指標（２）草津市が「健幸なまち」であると思う市民の割合』は、市民意識調査の結果になるが、他の調査項目と比べ、現状値から毎年下がっている状況は珍しい傾向であることから、要因等の分析を深めていただきたい。

●座長

「事業の評価」については、3つの指標のうち、2つの指標で目標値を達成していることから、「地方版総合戦略のKPIの達成に有効であった」として、よいか。

→ **異議なく「有効であった」と了承される。**

《ビワイチ推進プロジェクト》

●委員

ビワイチの参加者数について教えてほしい。

●事務局

当該事業は広域で取組を進めている連携事業であり、市ごとのビワイチの参加者数は把握していないが、全体としては、平成27年度52,000人、平成28年度72,000人、平成29年度95,000人、平成30年度106,000人と年々参加者が増え、広がりを見せている。

●委員

現状の指標の設定は問題ないと思うが、前提条件である「利用者」が増加していることを資料の「事業効果」の欄に明記しても良いのではないか。利用者が増えている状況をもっとアピールし、一定の良い評価を見せていくことも必要であると思う。

●座長

「事業の評価」については、すべての指標で実績値が前年度の値よりも上回っていることから、「地方版総合戦略のK P Iの達成に有効であった」として、よいか。

→ 異議なく「有効であった」と了承される。

《常盤学区における地方創生拠点整備プロジェクト》

●委員

「指標（3）地方創生拠点の波及効果を含めた草津市の農業生産額の増」について、数値の算定根拠を教えてください。

●事務局

本市分の農業算出額については、生産農業所得統計（都道府県別推計）において推計された都道府県別農業算出額を農林業センサスおよび作物統計を用いて市町村別に案分し、算定している。

●委員

総合戦略を策定する際の指標設定の検討段階でも指摘させていただいたが、常盤学区という特定の地域のみを取組をもって、草津市全体の農業生産を計るというのは少し無理があるように思う。他の2つの指標についても、これらの指標が伸びることと「指標（3）地方創生拠点の波及効果を含めた草津市の農業生産額の増」がどのようにリンクしているのか分かりにくい。

確かに常盤学区は米の生産が盛んな地域であるが、農業生産額という言い方をするのであれば、北山田町の野菜がずっと生産額が多い。

●座長

来年度の評価の際には、取組の効果がより分かるよう説明の工夫をお願いしたい。

●座長

「指標（2）地方創生拠点としての常盤まちづくりセンターの利用者数の増に伴う施設利用料収入の増」について、「施設利用料収入の増」は重要な視点であるが、利用される方や団体によっては減免規定等も適用されると考えるため、利用者数そのものを指標にするなど、今後の指標設定にあたっては検討いただきたい。

●座長

「事業の評価」については、3つの指標のうち、2つの指標で目標値を達成していることから、「地方版総合戦略のKPIの達成に有効であった」として、よいか。

→ 異議なく「有効であった」と了承される。

(3) 令和元年度 地方創生関連交付金事業について

●事務局

【資料3-1、3-2に基づき説明】

●委員

『「健幸都市くさつ」実現プロジェクト』における『指標(1)「健幸都市くさつ」の実現をアシストする健幸づくりツアーの売上高』など、一部の指標については、実績値(H30)が既に目標値(R1)を達成しているが、指標の再設定等を行わないのか。

●事務局

健幸づくりツアーについては、今年度は、交付金事業の終了後を見据えた自走化に向けた検討を行う予定をしている。これまでの営業活動重視の取組から今後の自走化に向けた取組にシフトチェンジすることを踏まえた中で目標数値を810,000円に設定しているため、再設定を行うことは考えていない。

●座長

他の指標についての考え方はいかがか。

●事務局

評価の継続性という観点から、それぞれに計画期間における目標を設定した中で取組を進めてきているため、残期間との兼ね合いからも指標については変更せずに取組を進めていきたいと考えている。

●委員

総合戦略の効果検証にあたっては、各事業の効果がもう少し分かると良いのではないかと考える。

●座長

次期総合戦略の策定に際しては、委員の御意見を踏まえたうえで策定を進めていただければと考える。

4. 閉会

●金森副部長

本日は大変お忙しい中、当懇話会に御出席賜りまして、誠にありがとうございました。本日、皆様から頂戴しました御意見を参考にさせていただき、今後、事業を推進してまいりたいと考えております。

今後におきましても、皆様それぞれのお立場から貴重な御意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしく御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げまして、閉会の挨拶をさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以上